

# 株式会社ジェイコム武蔵野三鷹局

## 放送番組審議会 議事録

平成 28 年度(2016 年度)株式会社ジェイコム武蔵野三鷹局番組審議会は、2017 年 3 月 24 日(金) 武蔵野三鷹局にて開催された。

### 【放送番組審議会委員】

#### ご出席

秋山 慎一 様

岡崎 昌史 様

見城 武秀 様

塚本 真史 様 代理)寺岡 芳雄 様

名古屋 友幸 様 代理)平之内 智生 様

土方 弘子 様

#### ご欠席

新井 正樹 様

事業者側から J:COM チャンネル(11ch)と J:COM テレビ(10ch)について報告があった。

### 【質疑応答・意見交換】 進行：見城会長

#### ■ 武蔵野市との取組について

##### 委員

「高校野球」の期間は「デイリーニュース」が都域統一版の内容となっていたが、多摩エリアはどの程度の頻度で紹介されたのか？ 話題が少なかったように感じる。

##### 事業者

都域統一版の「デイリーニュース」は基本的に各エリア 1 案件だが、武蔵野市と三鷹市で 1 エリアとなってしまうので通常放送よりは少なくなってしまう。野球中継にスタッフを多く取られてしまうことも課題。

##### 委員

通常の「デイリーニュース」は武蔵野・三鷹の話題が中心だが、多摩エリア全体のニュースも流してはどうか。各市の行政は横の連携が少ないので、ニュースからコラボにつながるようなアイデアを得られると思う。

## ■三鷹市との取組について

### 委員

災害時における自治体との連携は大きな意義がある。来月には三鷹中央防災公園・元気創造プラザがオープンするが、災害時には施設全体が対応の拠点として機能する。災害発生時にこうした情報を伝えられるケーブルテレビの役割は大きく、今後もしっかりと連携していきたい。

## ■放送と通信の融合に関して

### 委員

せっかく取材に来てもらっても参加者に J:COM 加入者が少なく、放送を見ることができない。現代はスマホなど視聴媒体が多様化している。地上波の総視聴世帯数は年々減少しており、若い人はテレビを見ない人も多く、スマホのみを使用している方が増えている。まずは見てもらうための施策として WEB でのアーカイブ化や YouTube での配信、ゆくゆくはスマホなどでの課金コンテンツ化…という流れを考えていくべきではないか。地上波もコンテンツを切り売りしている時代だからこそ、ケーブルテレビ最大手として先鞭を切って欲しい。特にローカルを攻めていくなら、スマホでのきめ細かい発信は関心が高いだろう。もちろん放送には意義があるが、配信は大きな可能性を感じる。

### 委員

放送と通信の融合は大きな課題だと思う。昨今ケーブルテレビの立ち位置に関していろいろな意見が出ているが、J:COM はかなり多岐に渡って事業を進めている印象がある。アーカイブ化についてはどう考えているのか？

### 事業者

「練馬こぶしハーフマラソン」を YouTube 配信するなど、アーカイブ化も含めて様々な方法を検討している。課題は個人情報や肖像権で、「第 8 回中学生 東京駅伝大会」の生中継に際しては約 2000 人の参加者全員から許諾を取るなど、子供だからこそ配慮が必要となっている。民放とは異なり、地域密着の J:COM だからこそ映り込みには慎重にならざるを得ない。スマートフォンなどを活用した配信については様々な課題があるが検討する。

### 委員

昔は市の広報紙で許諾を取らず写真を掲載しても感謝されたものだが、時代が変わってしまった。最近ではテレビを見る時間も減ってきている中で「ながら見」も多くなっており、音声を消して聴覚障がい者用の字幕を使つての視聴という方法もある。技術的に難しいと思うが、是非 障がい者対応としての字幕放送を検討して欲しい。

## 事業者

番組の字幕化については、字幕を作成するスタッフが別途必要になるため費用について調査のうえ、技術的に可能になったら検討したい。

## 委員

AI 技術が進んでいるので、いずれ会話を高精度に文字化できるシステムが登場するかもしれない。

### ■特別番組に関して

#### 委員

吉祥寺に有名な祭りを作りたいという想いで 40 年以上前から「吉祥寺秋まつり」を続けているが、なかなか浸透していなかったのが「第 43 回吉祥寺秋まつり」の特番化に感謝している。準備段階から取材が入ることにより若者連中の意識が変わったし、番組を見るため J:COM に加入した人もいる。

井の頭恩賜公園 100 周年、吉祥寺コレクション、吉祥寺音楽祭、大吉祥抽選会、吉祥寺アニメワンダーランドなどイベントが盛りだくさんだが、皆 浸透させようと苦労しているので是非 J:COM で取り上げてもらいたい。

#### 委員

イベントの取材は嬉しいが、市民も参加できるように撮影した画像などを投稿できるツールがあると良い。天気予報で視聴者投稿の画像が紹介されているようなイメージで、番組に投稿を募るのはどうか。例えば「三鷹阿波おどり」の映像は大迫力だが、カメラが拾いきれない市民の表情は画像投稿で集める。それを各市の HP で見られるようにすれば、行政・市民・J:COM の 3 者が連携を進めていけるだろう。

### ■J:COM テレビに関して

#### 委員

「笑福亭鶴光のオールナイトニッポン TV@J:COM」はラジオ世代には非常に刺さる内容だと感じた。同様の仕組みを、ローカル枠で地域のケーブルテレビとローカル FM のコラボにしたら面白いのではないかと。災害時における情報提供は大きな課題だ。三鷹市では新たに防災センターを設置し、災害情報システムの導入などケーブルテレビとの連携が非常に重要であると考えている。

### ■編成方針に関して

#### 事業者

今後は未来の情報を増やしていく。これから開催されるイベントや、街がこう変わっていく…という情報提供の協力を行政などから頂き、視聴者に伝えていきたい。

## 委員

根底に地域密着の良さがあると思う。日ごろスポットが当たりにくい事象を掘り起こして好感が持てる。行政は地区の連携が少ないので、ニュースなどから他市との連携が見えてくると自市の行政活動に活かせるだろう。

また、プロモーション活動に注力してきたが、効果測定が欠けていた。より前広に情報を出していく中で一緒に探っていければと思う。イベントの前から取材を行って頂くことで、事業がどう変遷で成立したかの経緯が記録される。武蔵野市制 70 周年でも事前から入って頂いて全体を盛り上げていきたい。

## 委員

「地域から全国へ」というコンセプトのとおり、是非 動画配信を検討して欲しい。

例えば「私立輝女学園モノコト部」が取り上げている伝統技術の紹介は注目度が高く、積極的な配信を行えば世界中から視聴されるかもしれない。今後はコンテンツの勝負になるので、可能なことから始めるべきだろう。

## 委員

コミュニティチャンネルは目覚ましい充実ぶりだと感じる。「ど・ローカル」という編成方針に則って限られた地域の話掘り起し、それを各拠点でつなぎ、新しい価値を生み出している。これからのケーブルテレビの方向性を実現しつつあると言えるだろう。

ただ、残念ながら潜在的な視聴者層に届いていない。テレビを見ない中高生でもスマホでテレビ番組を視聴している。需要は存在しているので、どのように届けるかが課題だろう。

### ■ 映像の歴史的価値に関して

## 委員

J:COM が撮影してきた映像資料には歴史的価値があり、地域の財産として残すべき。

現在～未来の映像はデータで撮影されるのでアーカイブ化の条件は満たされているが、過去の映像が問題。20 年前の会社設立時から長い期間分、映像はテープでしか残されていないのでデータ化する必要がある。テープの劣化を考えると時間はあまり残されておらず、自治体と J:COM が連携して考えなければいけない。街の姿がどう移り変わってきたかを知ることが愛着へとつながり、街を理解するきっかけにもなる。

コストや手間といった問題はあるが、企業の課題とするのではなく、地域への貢献として自治体と J:COM が協力して進めて欲しい。

## 事業者

地域に根差した歴史的な助言や多面的な意見を多く頂いた。

テレビの視聴が落ちている中、メディアの多様化をどう捉えて進めていくのか議論していく。

配信に関しては、利用者にとってインターネットは無料というイメージが強いので、コストを回収できるビジネスモデル構築が必要。有用な情報を伝えつつ収益を上げるのが課題。

社会的弱者のニーズに応えるサービス開発も容易ではないが、システムの拡充や技術革新に期待したい。

4K・8K への取り組みも始まっており、映像資料の歴史的価値など問題点が見えてきた。

引き続き支援して頂けるよう、一歩でも二歩でも進めていきたい。

以上